

視察報告

福島県下郷町、山形県蔵王温泉 視察報告書

産業建設常任委員 関 忠夫

下郷町研修

観光振興等による町おこしの取り組みについて

1、大内宿は江戸時代の宿駅制度の中で作られた下野街道（会津西街道）の主要宿です。会津若松城下から第3の宿駅で荷役や人馬の継ぎ立てと宿場を営むかたわら高地での農業生産をする半宿半農の集落でした。大内宿を初めて紹介したのは武蔵野美術大学の相沢韶男教授でした。「大内宿は強烈だった。草屋根がずらりと並び私はその姿に圧倒された。」と述べています。大内宿は保存地区として選定を受けるまで14年を要しています。住民の理解が得られなかったのです。



大内宿

民は、土地の補償や就労の場を得ることが出来た。日頃静かな山あいの集落に多くのマスコミが押し寄せ「金持ちはトタン屋根、貧乏人は萱屋根に住んでいる。」といった報道が流されたのです。

当時住民は反発し保存にむけての話し合いも中断せざるを得なかったのです。

それから30年、大内宿は参勤交代や馬子たちで賑わったような江戸時代の活気を再び取り戻し、

伝統を受け継ぎながら大内宿の保存に力を合わせ努めています。国より重要伝統的建造物群保存地区としての選定を受けて、国県指導のもと修理景を実施しています。

観光客の入込状況は昭和60年、2万3565人の来場者でしたが、年々ふえてゆき

平成19年には102万9150人まで増えた。今後とも下郷町の観光地として多くのお客さまが来場すると思えます。大内宿で働いている人は、約500人くらいいるそうです。

2、「道の駅しもごう」は下郷町の国道289号上にある。愛称は「しもごうエマツト」2009年（平成21年）3月12日に道の駅に登録された。

申子道路（国道289号）のほぼ中間地点にあり、福島県南地域から南

会津地域への新たな玄関口にあたる。福島県内の道の駅では最も標高（858m）が高い立地であり南会津や那須などの雄大な山並み（七が岳、三倉岳、三本槍岳など）が眺望でき周囲の豊かな自然と四季折々の風景が満喫できる。

主な施設は駐車場普通車31台、大型車8台、身障者用2台・トイレ（24時間可能）男子7器、女子5器、身障者用1器情報提供コーナー、農産品、特産品販売施設・食堂48席、（座敷16席、フロア32席）

テイクアウトコーナー、ウッドデッキ（4人×4台）

運営は指定管理者を決めて営業。社員は14名（正社員4名、パート10名）で年間雇用（パートは暇な時期休みをとる）営業時間7時から19時まで。

現在は駐車面積が足りないため増設をしている。（普通車50台分）また農産物、直売所の拡大を進める道の駅しもごうエマツト

トでは冬期間、販売する農産物がなくなる中、新たな地場産加工品として約1年間キャラメル（ジャージー牛の生乳を使用）づくりに挑戦し商品化したもの全て手作業で行われるキャラメルづくりは、地域の雇用の場としても機能している。他には食用ほおずきの本格的な栽培を開始し生食を中心に販売するほか、ジャム等、加工品の開発も進めており地域特産物になることが期待されています。



道の駅しもごう